

飲みすぎると

アレルギー治療薬⇨活動量低下
 副作用のダメージが蓄積してリスクが激増……
 便秘薬⇨倦怠感

認知症を招く処方薬

11

薬の飲みすぎによって生じる副作用は数多く指摘されている。そのなかには、認知機能にダメージを与えてしまうものも。薬と上手に付き合っていく心構えが大切だ――。

「います」

「認知症になる最大の原因は加齢による脳の老化ですが、患者さんのなかには、薬が原因で認知症を患っている人も少なくありません。最近では、加齢からくるものよりも、薬が招く『薬剤性認知症』のケースのほうが多いとさえ感じています」

そう語るのは、多くの認知症患者を診察してきた「長尾クリニック」院長の長尾和宏先生。

認知症の患者数は増加傾向にあり、20年に600万人を突破した。25年には700万人を超え、高齢者の5人に1人が発症するといわれている（上グラフ参照）。

認知症の発症リスクを高める要因としては、加齢のほかに生活習慣病や運動不足、偏った食生活や社会生活からの孤立などがあるが、薬の服用が認知症の原因になるとはどういうことだろうか。長尾先生に解説してもらった。

「まずは、高齢者に多い『多剤併用』からくるものがあります。高齢になると、降圧剤、糖尿病治療薬をはじめ、頭痛薬、頻尿の薬など何種類もの薬を服用する人が増

えてきます。このような多剤服用の影響を受けて、認知機能が低下するケースがあります。

さらに、単体の薬剤を服用している場合でも、認知機能低下、認知機能障害など、認知症につながる副作用があることを忘れてはいけません」（長尾先生・以下同）

脳の興奮を抑える薬が「せん妄」を引き起こす

健康のためにと服用している薬が認知症のリスク要因となってしまうとは……。長尾先生が続ける。「不眠を訴える人に処方されるベンゾジアゼピン系の睡眠薬や抗不安薬は、『脳のなだめ役』といわれる神経伝達物質『GABA』の一部の働きを増強して、神経の興奮を抑えます。

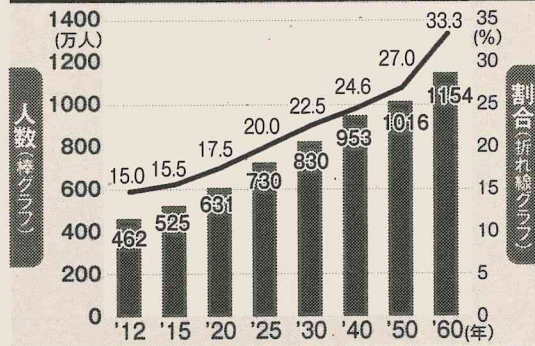
その効果のいっぽうで、この薬は脳の中樞神経に働きかけることから、長期にわたって使用した場合、時間や場所がわからなくなってしまう見当識障害や幻覚、注意

力低下が起こる「せん妄」を引き起こしたり、アルツハイマー型認知症が生じることが明らかになっています」

薬と認知症の関係については、18年に英イースト・アングリア大学の研究チームが、約30万人分のデータを分析した結果から「抗コリン作用をもつ薬が、将来的な認知症発症と強く関連している」と報告。特に抗うつ薬、抗パーキンソン薬、泌尿器系治療薬では服用期間が長く、量が多くなるほど認



65歳以上の認知症患者数の推移予測



※各年齢の認知症有病率が上昇する場合 出典(内閣府「平成29年版 高齢社会白書」)

「認知症を招く処方薬」①

知症リスクが高くなることを指摘している。

元帝京大学薬学部非常勤講師で薬剤師の三橋清治さんが解説する。「抗コリン作用のある薬は、抗アレルギー薬や胃腸薬、気管支拡張剤、過活動膀胱治療薬、パーキンソン病治療薬など、広範囲にわたります。抗コリン作用とは、副交感神経を活発にして血管を拡張したり、消化管の機能を高めたりする神経伝達物質「アセチルコリン」の作用を遮断する働きです。

アセチルコリンは記憶力や意欲を高めることに関わっているのですが、その作用が遮断されると、認知機能が衰えてしまうことも。

また、単独では抗コリン作用が大きくない薬剤であっても、長期間の使用や、ほかの薬剤との併用によって抗コリン作用が増強してしまつ可能性も十分考えられます」
認知機能に悪影響を及ぼす副作用



年齢を重ねていくにつれ、服用する薬の種類はどうしても多くなりがちだ

用がある処方薬をまとめたものが左ページのリストだ。胃の薬や便秘薬など、身近な薬剤も含まれているのが気になるところだが――。長尾先生が続ける。

「胃酸の分泌を抑える胃薬H₂プロツカールは、長期服用による耐性の発現があり、せん妄や認知機能低下、性格が攻撃的になつてしまつ、などの副作用があります。

腸内で水分を吸収して便を軟らかくする便秘薬「酸化マグネシウム」は、飲み続けると血中のマグネシウム濃度が上がる「高マグネシウム血症」が現れることも。傾眠、全身倦怠感、無気力などの症状が起こり、認知機能低下にもつながります。

薬には効果とリスクがある、ということを認識しましょう。そして、必要なとき以外は使わない、という姿勢が大切です」

降圧剤による血流量の減少も認知症リスクに

また、50代以上に多い高血圧症の患者に処方される降圧剤にも認知症のリスクはある。血圧を下げることで全身の血流量が減少し、酸素と栄養が脳に届かなくなるため、そこから認知症のリスクが高まるという見方があるのだ。

大切なことは、認知症と思われる症状が現れたときに「薬の影響かも？」と思えるかどうかだと長

尾先生は言う。

「薬剤性認知症は、薬が原因だと気づきにくい。薬による認知機能の低下なのに、病院に行くこと認知症だと誤診されて、抗認知症薬が処方されることもあります。

いまある認知症の薬は、あくまでも一定期間、認知症の周辺症状の緩和に効果があるとされるもの。なかには服用することで急激に症状を悪化させて、そのまま本当に認知症になつてしまつ、ということも少なくないのです。

病院にかかるときは、今飲んでる薬を、本人もしくは家族が、正しく医師に伝えることを忘れないようにしましょう」

薬から得られるメリットを、副作用というデメリットが上回つてしまつては本末転倒。服用する際には細心の注意を払うことが、認知症のリスクから身を守るためにも欠かせないのだ。

新しい魅力と野心に溢れた才能を求めます。

日本ミステリー文学大賞

新人賞

第26回 作品募集

正賞 シエラザード像
副賞 500万円

2022年5月10日締切 [当日消印有効]

選考委員



募集要項

- 種目 ● 広義のミステリーで、日本語で書かれた自作未発表の小説。
- 枚数 ● 400字詰原稿用紙換算で350枚から600枚まで。
- 発表 ● 2022年10月下旬(予定)の選考終了後、発表。「小説宝石」2022年12月号誌上に結果・選評を掲載。
- 賞 ● 正賞 シエラザード像 副賞 500万円
- 宛先 ● 〒112-8011 東京都文京区羽羽1-16-6 光文文化財団文学賞係

※詳細はホームページをご参照ください。

主催/光文文化財団
tel. 03-5319-3180
https://kobun.or.jp/

認知症リスクに関係する主な処方薬リスト

処方薬の種類	成分名(薬品名)	副作用など
脂質異常症治療薬	シンバスタチン (リポバス、シンバスタチン、ラミアンなど)	肝臓へのコレステロールの取り込みを増強するが、倦怠感、脱力感、記憶障害や混乱などの認知機能障害の副作用が出るリスクも
消化性潰瘍・胃炎治療薬 (ヒスタミン(H ₂)受容体拮抗薬)	ニザチジン (アシノン、ニザチジン)	H ₂ ブロッカーと呼ばれ、胃酸の分泌を抑える。同時に脳内の中枢神経系が抑制されてしまうことから、厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用の指針」でも認知機能低下のリスクが指摘されている
	ファモチジン (ガスター、ガスターD、ガスセプト、ストマルコンDなど)	
睡眠薬・抗不安薬 (ベンゾジアゼピン系)	エチゾラム (デバス、エチゾラム)	大脳辺縁系や視床下部に作用する精神安定剤、睡眠を導入するための薬には、副作用として眠気、ふらつき、倦怠感、脱力感などが。また依存性が強く、長期服用することで空間視力障害、IQの低下、協同運動障害、言語性記憶、注意力の障害などが報告されている
	ジアゼパム (セルシン、ダイアップ、ホリゾンなど)	
	トリアゾラム (ハルシオン、トリアゾラム、ハルラック)	
	ニトラゼパム (ネルボン、ベンザリン)	
てんかん治療薬	バルプロ酸ナトリウム (セレニカR、デバケンなど)	神経の異常興奮の伝達を抑え、けいれん発作、性格行動障害などを改善する作用がある。副作用には傾眠、ふらつき、倦怠感、せん妄のほか、認知機能障害などがあるため高齢者は特に要注意
	フェニトイン (アレビアチン、ヒダントールなど)	
うつ治療薬 (三環系)	アミトリプチリン (トリプタノール、アミトリプチリン塩酸塩)	抗うつ薬(「SSRI」「SNRI」「四環系」など)の使用で認知症の発症リスクが3倍になるとの報告も。特に三環系にはパーキンソン症状、倦怠感、ふらつきのほか、せん妄、運動失調などのリスクが
	イミプラミン (イミドール糖衣、トフラニール)	
アレルギー疾患治療薬 (第一世代ヒスタミン(H ₂)受容体拮抗薬)	d-クロルフェニラミンマレイン酸塩 (ポララミン、アニミンなど)	アレルギー反応を起こすヒスタミンの働きを抑制するため、皮膚炎や湿疹にともなうかゆみ、アレルギー性鼻炎、乗り物酔い止めなどのために使われる。眠気や倦怠感の副作用のほか、活動量や認知機能の低下を招くことも。抗コリン作用がある薬剤でもある
	ジフェンヒドラミン塩酸塩 (ジフェンヒドラミン、レスタミンコーワ)	
	シプロヘプタジン塩酸塩 (ベリアクチン、シプロヘプタジン塩酸塩など)	
	ヒドロキシジン塩酸塩 (アタラックス)	
	ヒドロキシジンバモ塩酸塩 (アタラックスP、ヒドロキシジンバモ塩酸塩)	
消化性潰瘍治療薬など	アトロピン硫酸塩 (硫酸アトロピン)	胃・十二指腸潰瘍や胃炎に胃液の分泌を抑えたり、胃腸のけいれん性の痛みなどを和らげる。緑内障の治療に使われるものも。めまい、頭痛、筋けいれん、倦怠感などの副作用があり、長期にわたる使用で、認知機能の低下を招き認知症のリスクを高めると指摘されている
	ジサイクロミン塩酸塩・乾燥水酸化アルミニウム (コランチル配合)	
	プロバンテリン臭化物 (プロ・バンサイン、メサフィリン配合)	
パーキンソン病治療薬	トリヘキシフェニジル塩酸塩 (アーテン、セドリーナ、トリヘキシンなど)	記憶障害、実行機能障害などの副作用があるが、病いの進行とともに認知症が発症するため、副作用による認知機能障害か判断が困難
頻尿・過活動膀胱治療薬	オキシブチニン塩酸塩 (ボラキス、ネオキシテープなど)	切迫性尿失禁、尿意切迫、夜間頻尿などの症状がある過活動膀胱症の改善のために服用する。高齢者には膀胱容量の増加のため抗コリン薬が使われるが、せん妄、幻覚などの副作用があることも。長期使用でアルツハイマー型認知症のリスクを高めるという報告もある
	コハク酸ソリフェナシン (ベシケア)	
	酒石酸トルテロジン (デトルシール)	
便秘治療薬	酸化マグネシウム (酸化マグネシウム)	長期使用で、傾眠、筋力低下、全身倦怠感、無気力などの症状があらわれる高マグネシウム血症を引き起こし、認知機能を低下させる
副腎皮質ホルモン薬	プレドニゾン (プレドニゾン、プレドニン)	副腎皮質ステロイドともいう。炎症や免疫の働きを抑えたり、抵抗力を高めたり多彩な薬効があり、慢性関節リウマチ、気管支炎ぜんそくなどにも使われる。いっぽうで用量依存により、注意力や記憶力などが低下する慢性の認知機能障害をきたすリスクが指摘されている
	コルチゾン酢酸エステル (コートン)	
	デキサメタゾン (アフタゾン、デカロンなど)	

眞子さん NY生活 頼る 美智子さんの資産 秘 運用63年

寂聴 80歳 99年 99年 この法話は 私の遺言 感動をありがとう! 向春の特大合併号 カニと牛 お取り寄せ 京都美味

オダギリジョー 小栗旬 演技が乱される! 羽生結弦 このまま終わらな... 岸田政権 生活必需品 26値上げ!

3月1-8日合併号 特別定価450円 光文社

雅子 30年愛 陛下のお傍に

さらば冠城画反町! 相棒 マスク 許せない 高梨沙羅に北京 デタラメ判定続出なぜ? オダギリジョー カム設定変更! 妻への深愛 小栗旬 演技が乱される! 西村まさ彦は共演NG

羽生結弦 このまま終わらな... 自分を褒められない...「再び茨の道へ」王者復活へ南仏の誓い



特大 ゆづぽスター

岸田政権 生活必需品 26値上げ!

飲みすぎると認知症招く処方薬 最新47都道府県ランキングで判明! 最下位は秋田県 3回目接種率は南高北低 オンミク 拡大は感染研 誤指針のせい 識者 告発

健康寿命を延ばす 食べ合わせ アボカド×サーモンで19分も増える! 分単位リスト 15

血液型別 食べる食材 30 A型 豚肉 O型 パン

愛子 胸高鳴る ゆづと8年越し 夢対面

高血圧改善 ココア甘酒 家政婦 収納金ルール 宝くじ高額 億の前兆 当せん者告白

肩こり&ひざ痛解消 1円玉貼るだけ ツボ刺激 皇室ゆかりの開運スポット スパゲティ 31 さぼりタン

